コラム⑪

青年像のモデルは誰？

青年像原型

正式には「蒼穹」と名付けられた2mほどの二体のブロンズ像は、1980（昭和55）年2月13日、多摩キャンパスに移設される。奇しくも当日の午後5時40分、制作にあたった彫刻家の本郷新が病のために亡くなった。

本郷新はこの像に「友愛」と「未来への歩み」という若者へのメッセージを込めたという。制作にあたっての苦心を問われ、「非常にすらすらいきました……モデルも青年像を造る会の学生が連れてきたのですが、彫刻ではもっとも重きをなす足の線が良かったですねえ。スケッチに2、3ヵ月かかりましたが、家族そろって協力してくれました」と語っている。

そのモデルとなったのは、当時、中大附属高校3年生で陸上部に所属していた長谷正治（学員）。「先生が、実際の私の脚より像の脚を長めに作ってくださった」というが、本郷にとって「語り合い歩む」青年の脚は、彼の理想とメッセージを表現するものだったようだ。顔を変えてはいるが二体とも長谷がモデルで、向かって右側が制作当時の顔という。

出典：『タイムトラベル中大125:1885→2010』第2版。一部修正を施している場合があります。